

平成28年3月31日

平成27年度久慈市議会「新政会」視察研修報告書

報告者名
氏

上山 昭彦

久慈市議会「新政会」

「新政会」会派視察研修を実施したので、次のとおり報告する。

1. 視察期間 平成28年2月18日(木)～2月20日(土)
2. 視察先
 - ・東京都町田市議会
 - ・埼玉県飯能市議会
 - ・栃木県下都賀郡壬生町「道の駅みぶ」
 - ・栃木県芳賀郡茂木町「道の駅もてぎ」
 - ・群馬県利根郡川場村「道の駅川場田園プラザ」
(見学のみ)
3. 研修議員 澤里 富雄 議員(会長)
上山 昭彦 議員(幹事長)
泉川 博明 議員
山田 光 議員
岩城 元 議員
中平 浩志 議員(議長)
4. 研修事項
 - (1) 東京都町田市議会
 - ◎「議会改革の取り組み」について
 - (2) 埼玉県飯能市議会
 - ◎「タブレット端末の活用」について
 - (3) 栃木県下都賀郡壬生町「道の駅みぶ」
 - ◎「道の駅みぶの運営」について
 - (4) 栃木県芳賀郡茂木町「道の駅もてぎ」
 - ◎「道の駅もてぎの運営」について

視察内容

| | |
|-------|---|
| 日 時 | 平成28年2月19日（金） 午前9時30分～午前11時30分 |
| 視 察 先 | 東京都 町田市議会 |
| 視察先住所 | 東京都 町田市 森野2丁目2-22 |
| 説明者 | 議長 上野 孝典 様 議会事務局次長 古谷 健司 様 / 事務局 三沢 幸子 様 |
| 視察目的 | 「議会改革の取り組み」について |

研修内容

●冒頭に上野議長から町田市の市政全般にわたっての説明を受ける。



●あいさつをする澤里会長。

●あいさつをする中平議長。



●研修後の記念写真。

研修内容

所感

東京都の町田市議会は、早稲田大学マニフェスト研究所の調査による「議会改革度調査2014」において、総合10位にランクづけられるように、議会改革を積極的に推進する議会であり、基本条例を制定し、引き続き議会改革の作業を図っている久慈市議会の一員として、今後の久慈市議会の議会改革を進めるうえで参考となる事例等を研究するため、町田市議会の視察研修を行った。

前頁写真のように、はじめに上野議長より町田市全般にわたりご紹介をいただいたが、学校が多い学園・商業発展都市であること、議員の平均年齢が47歳ほどであることなどが紹介された。当市議会議員の平均年齢が63歳ほどであることを考えると平均で15歳もの開きがあることは、年齢だけで議会の在り方を図ることはできないが、相応の感覚の違いが出てくるものではないかと感じさせられた。

また、議会基本条例を制定していないことが話されたが、議会改革に取り組む中で基本条例を制定することなく議会改革を進めていることは驚きであった。その後、古谷次長より「町田市議会改革の取り組みについて」説明をいただいたが、基本条例がなくても、議会改革ができることは認識されたが、地方議会運営の基本原則を定めるための条例であることから、制定してある場合のほうが議会改革を進めやすいと考えられた。

40万人を超える大きな人口を持つ自治体ではあるが、近年インターネットの普及に伴い、議会の傍聴者が減少傾向にあったようだ。平成24年に庁舎を新しくした際、開かれた議会をめざし、11階建ての庁舎の3階に議事堂を配置しワンストップロビーから直接議事堂に入れる様設計したことにより、幾分ではあるが傍聴者の増加がみられるようである。庁舎施設内に議場を傍聴しやすいように設置することは、当市においても何年か後の課題となってくるものと思われ、参考にできるものと感じられた。

傍聴に際しては、18年前から受付簿を廃止し、手話通訳者の派遣依頼や傍聴席に議案等の会議資料を配置するなど傍聴に来やすい環境を整えているようであるが、手話通訳者は、政治や行政の知識がある程度なければ、手話としてうまく伝えられず、人員の確保に難しさがあると思われ、傍聴席への資料の配置などはそれほど多

くない費用ですぐにでも行えることであり当議会でも取り入れる方向での検討が必要と思われた。

一般質問は、10年ほど前から議員一人当たり1時間となっているようであるが、ほとんどの議員が一般質問を行うようであり、他市議会も同様の傾向にあることも踏まえ、当議会も会派代表質問を考えながら個人質問へ改正することも検討していかなければならない時期に来ていると感じられた。

議会改革を行う上で取り上げられる項目に、議会報告会の開催が挙げられるが、町田市議会では、議会報告会を行っていない。しかし、福祉関係や保育園・医師会等の市民団体と年間6～7回程度の懇談会を常任委員会単位で開催しており、議会報告会とは別に定義されるものではあるが、幅広く多くの市民団体との懇談が持たれていることは、特筆すべきものである。当議会の「かだつて会議」においても、今後、高校生や市民団体等との懇談も考えていかなければならず、委員会ごとに行われていた懇談会を参考として「かだつて会議」をさらに進化させることにより、多くの市民との「かだつて会議」としていければと思われる。

ICTの利用に関しては、パソコンの議場及び委員会室への持ち込みを平成23年より試行として行っているようであり、平成26年から委員会室へのパソコンの持ち込みが可能となったようであるが、議場へのパソコンの持ち込みは依然試行段階であるとのことであり、当議会での議場や委員会室へのパソコンの持ち込みが可能となった時期が幾分遅いとも感じられたこともあったが、若い年代が多い町田市議会においても、議場へのパソコン持ち込みがいまだに試行状態であることは、考えられないことであった。

しかし、少し古いデータではあるが、2013年の早稲田大学マニフェスト研究所の調査では、議場へのパソコンの持ち込みが許可されている議会は10%程度とのことであり、現在ではもう少し増えていると思われるが、持ち込み許可が大幅に増加したとは考えにくいところであり、この部分に限っては、久慈市議会の先進性を誇ってもよいのではないかと感じられた。

反面、パソコンを議場内で十分に利用・活用している議員の数はまだまだ多いとは言えない状況にあり、議場内で使用するためのモラルの向上を含め、パソコンの技術的な熟知度の向上を進めることができれば、ICT活用へ弾みがついてくるも

のと考えられる。

また、タブレットの導入では、町田市議会では本年9月より全議員へ配布の上、ペーパーレス化を中心にコスト削減を図り、試算では年間400万円余りの削減を見込むとのことであり、ソフトも含めた導入費用380万円を1年間で取り戻せる計画のようである。

当議会においてもタブレット端末は個人対応ではあるが普及が進んでおり、委員会招集や各種連絡には十分対応できる状況になってきていると感じられることから、紙代や郵送料の削減のほかに事務局の連絡事務量の軽減にもなり、早急にタブレット端末の利用促進を進める必要があると感じられた。

視察内容

| | |
|-------|--|
| 日 時 | 平成28年2月19日（金） 午後2時30分～午後4時00分 |
| 視 察 先 | 埼玉県 飯能市議会 |
| 視察先住所 | 埼玉県 飯能市 大字 双柳1-1 |
| 説明者 | 副議長 内田 健次 様 / 議会改革特別委員会委員長 梶田 博之 議会改革特別委員会委員 大津 力 様 / 議会事務局主査 石川 泰伸 様 |
| 視察目的 | タブレット端末の活用について |

研修内容

●飯能市役所正面玄関での歓迎の出迎え。



●飯能市議会副議長より飯能市政と議会の説明を受ける。

●視察後、飯能市議会議事堂内で記念撮影。



研修内容

所感

飯能市議会は、「議会改革度調査2014」ではそれほど上位にランクづけられているわけでは無いが、議会改革の中での「タブレット端末」は、平成24年度から導入されている。取り組みの背景として、環境マネジメントシステム（ISO14001）適合をめざし、環境に配慮した活動を推進するため電気使用量やごみ排出量・紙使用量の削減目標を計画したようである。電気使用量とごみ排出量の削減は概ね目標を達成されていたことから、紙の使用量削減に取り組むためペーパーレス会議の推進が掲げられ、飯能市全体では平成22年度比で125万枚の削減を目標とし、議会分は10万枚の削減を目標とした。重量換算でその時点では、目標値20トンに対して実績で約5トン程度の超過がありこれを削減するための取り組みであった。

当初、多くの議員が所持していたノートパソコンも検討されたようだが、その重量から取り扱いが煩わしい等、持ち運びにも配慮しやすいタブレット使用に踏み切ったとのことであった。民間の通信企業から端末を借入ペーパーレス化が開始され、活用方法については、全員協議会のペーパーレス化・議会内の各種文書送信・災害等の緊急通信・先進事例調査・既存の電子データ利用を掲げタブレットの活用とした。

関心の一つである費用については、導入費用として、初期費用205万円・維持費用141万円の合計346万円が支出されたとのことである。毎月発生する通信費に関しては、月額約5,700円の内4/6を公費とし、1/6を政務活動費から1/6を自己負担としているようであり、端末機器の負担額は民間事業者の販促を利用したため初期費用には入っていないとのことで、費用の軽減方法として今後の参考となる部分である。

導入の効果としては、議会事務連絡のFAX送信の為だけに1時間以上も費やすなどしていた通信事務が大幅に改善されたこと、費用の面では、会議録の製本をやめたことや全員協議会の紙資料を削減したことにより、年間約210万円の削減効果があったとのことであり、導入経費約346万円を考えれば2年間でその経費を上回ることが出来たようであるが、議事録の資料としての考え方や利用性など検討する必要があるのではないかと感じられた。

他の効果としては、環境負荷軽減への考え方の深まりや危機管理対応の向上等が挙

げられていた。大規模災害の際に、議会に行くことが出来なくても地域の被災状況などをリアルタイムでの報告が出来、情報の早急な共有化を諮れるなどの利点が挙げられた。東日本大震災での教訓を踏まえると、当議会に於いても交通や電話等のインフラの遮断も現実と考えられ、各地域の生の情報を収集する方策としても重要なツールにできるものと思われる。

タブレットを導入している他自治体との比較としては、飯能市議会の場合、ペーパーレス化を第1の目標としていることがあげられるが、NAS（Network Attached Storage）を使用しているところが他自治体と特にも違っている。多くの自治体は、ファイルサーバーを利用してインターネットを経由してデータのやり取りを行っているが、飯能市議会は、自前のネットワークハードディスクを使用して議事録などの資料を管理しデータのやり取りを行っていることになる。

どちらの方法にも一長一短あると思われるが、NASネットワークハードディスクのメリットとしては、パソコンがなくても接続できるということが挙げられる。そのためコスト面が優れていることになるが、参加するユーザーやグループの管理などの手間がかかることや機器の更新や拡張性を考えた場合、導入に関しては慎重に進めなければならないと感じられた。

また、通常ファイルサーバーを利用していると、議事録や会議資料等庁舎外のどこからでもデータにアクセスすることができるわけだが、飯能市議会のNASは、自前のWi-Fiが届く範囲に限られ、データの利用を最大限に考えた場合、その活用範囲が狭くなってくることが懸念されるのではないか。

説明の中でも話されていたが、議会内での今後のタブレット環境を推進していくためには、そのルール作りが急がれるところである。禁止・遵守事項の策定やどこまでペーパーレス会議を浸透させることができるか、そして、データの流出防止や端末の紛失によるセキュリティ対策の強化等課題はまだ多く残っていることを感じさせられた。

視察内容

| | |
|-------|--|
| 日 時 | 平成28年2月20日（土） 午後0時50分～午後2時00分 |
| 視 察 先 | 栃木県 「道の駅みぶ」 |
| 視察先住所 | 栃木県 下都賀郡 壬生町 大字 国谷1870-2 |
| 説 明 者 | 壬生町議長 市川 義夫 様 議会事務局長 倉井 利一 様 / 事務局 外丸 博 様 壬生町建設部都市計画課主幹兼みぶハイウェーパークみらい館長 平石 二美夫 様 |
| 視察目的 | 「道の駅みぶの運営」について |

研修内容

●澤里会長より受け入れのお礼とあいさつ。



●平石館長より、施設全般にわたっての説明。



●併設される展示施設には特産品のかんぴょうの歴史が展示。





研修内容

所感

「道の駅みぶ」は、町の財源の他まちづくり交付金や東日本高速道路(株)の負担金などを使用して、約14億5千万円をかけ4.1haほどの敷地に、食堂や産直などの物販スペースとトイレ等が入るメイン施設となる地域交流拠点施設の他、駐車場や公園施設を整備し、みぶハイウェーパークとして平成21年度より営業を開始している。

当施設は、壬生町が直接管理運営している町営の施設である。売店や食堂は町の商工会に委託し農産物などの産直はJAに運営を任せており、町としては、2名の職員と6名の臨時職員で観光や地域交流の拠点として、観光案内・特産物の紹介・レジャー情報のほか町のイベント情報の発信を行っている。

特徴的な施設の形態として、北関東自動車道と主要地方道の間にあることから、高速のサービスエリアとしての役割と並走する県道の道の駅としての役割を併せ持つ施設となっていることである。高速からは、上り下り線両方向から侵入でき、休息や食事もできるほか、道の駅施設に隣接する県営県営とちぎわんぱく公園や壬生町総合公園へは、徒歩による利用ができ、おもちゃ博物館や子どもや大人も楽しめる広大な園地が広がるなど1日中楽しめる場所づくりとしている。

現在、当市を含めた広域での大規模な道の駅構想が研究されているが、どのような地域になるのか決定されていない中、高速道路と一般道路のどちらからでも利用できる道の駅とすることは、新設する道の駅としての方向性の一つと考えられ、検討を重ねる必要があると思われる。

今後完成する高速道路としての三陸沿岸道路と一般国道の45号が並走する箇所が久慈市内にあることから、「道の駅みぶ」のような施設づくりとすることが大変重要な方向性と考えられるが、三陸沿岸道路はサービスエリアの設置が難しいようであり、インターの出口直近への整備としながらも、国道45号にも直接間近にアクセスしているような道の駅が考えられる。しかし、大規模な道の駅を郊外に整備することにより市内への観光客などの交流人口が減少することも想定しながら、郊外への大規模道の駅の整備に当たっては、市内への流入路の整備や魅力ある中心市街地の活性化を含め現在進捗している久慈駅前整備の奏功が期待される。

視察内容

| | |
|-------|-------------------------------|
| 日 時 | 平成28年2月20日（土） 午後3時00分～午後4時00分 |
| 視 察 先 | 栃木県 道の駅もてぎ |
| 視察先住所 | 栃木県 芳賀郡 茂木町 大字 茂木1090-1 |
| 説 明 者 | 茂木町地域振興課課長補佐 堀江 順一 様 |
| 視察目的 | 「道の駅もてぎの運営」について |

研修内容

●茂木町堀江課長補佐より施設の説明を受ける。



●近隣や他の道の駅も含めた説明。

●施設管理棟に設置されている幼児が遊べるスペース。



研修内容

所感

「道の駅もてぎ」は、平成27年2月全国モデル「道の駅」6駅のうちの一つに選定されるように、地域活性化の拠点として、特に優れた機能を継続的に発揮していると認められる道の駅を国土交通省が選定したものである。岩手県内でも「道の駅遠野風の丘」が全国モデルとなっているが、地域の元気を創る地域センター型であり主な機能が防災で、広域防災拠点として高度な防災機能を分担していることが特徴となっているが、「道の駅もてぎ」は、地域外から活力を呼ぶゲートウェイ（ここでは入口、玄関の意）型的で、主な機能は観光総合にあり、道の駅からもみることが出来る真岡鉄道のSLや近隣のサーキットなど地域の魅力へのアクセスポイントとしての入口・玄関機能としているところが遠野と違う特徴であることから、観光を含めたゲートウェイの考え方の勉強から「道の駅もてぎ」の視察とさせていただいた。

運営母体は、茂木町が90%を出資する「株式会社もてぎプラザ」であり、農林業・商業・観光の振興を図ることを目的にし、食料品の開発から加工販売まで施設内で行い、食堂や宿泊施設の経営も行っている。町の職員が2名常駐する他、社員が20名、パートやアルバイトが70名ほどと大きな雇用の場としての役割も担っていることは、地域活性化の一助として印象深いものであった。

当初の事業費としては、国・県の補助約7億3千万円、起債や一般財源を含め約8億7千万円の合計約16億円規模の事業である。販売額は、26年度で約8億2千万円とし開業19年間で、一年目の1億4千5百万円から大きく売り上げを伸ばしているが、商工館の改装や野菜直売所・レストランの改装等施設のリニューアルを早期に進め、手づくり工房などの新施設も積極的にオープンさせるなど、道の駅として利用者の楽しさを失くすことなく利便性を増大させる手法は参考とするところである。

利用者の人数を見ても、初年度の31万7千人から平成26年度は164万人となっており、前述の改装や新施設設置などの集客手法が功を奏していることがうかがえる。

また、道の駅敷地内に、町が直接、加工所としての「手づくり工房」を設置し、6次産業化の取り組みが行われていることが一つの特徴となっているようである。特産物の柚子やうづまなどの農産物を農家から全量高い値段で買い上げ加工・販売している

り、生産者の収入増による農業の発展と、新商品の開発と販売を含めた加工所の雇用の増大も図られているようであり、交流人口の拡大など観光としての道の駅のみならず、地元の産業振興の一翼も担える道の駅づくりは、これからの地方の道の駅づくりの方向性の一つであると思われた。

さらに、防災への取り組みも具体的に取り入れられていることも参考となった。道の駅が緊急避難所や緊急物資の提供・情報発信の前線基地の拠点として重要な役割を果たすことを考え、県とも協力して停電時にも使用できるトイレの設置や蓄電池の設置、そして災害時の拠点となる「防災館」を建設し、避難場所・備蓄倉庫等を整備している。当市で考えられることは、新しく整備する広域道の駅の機能として、「防災館」建設は別として、緊急避難場所への指定などはできると思われるほか、飲料水や食材等の応援などの協定においても締結できるように考えていく必要はある。

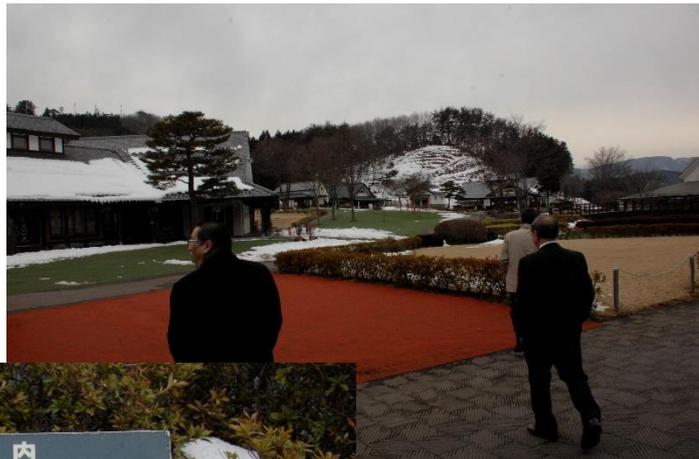
道の駅をお客様に積極的に発信することを目的に、低額での入会金による会員制度を発足させていることも的を得た戦略と思われる。買物につきポイントを付与しイベントなどへの優先権や会報誌の送付、会員限定のクーポン券の発行などお客様に再度訪れていただくための手法として参考となるものである。

視察内容

| | |
|-------|--------------------------------|
| 日 時 | 平成28年2月20日（土） 午前9時00分～午前10時30分 |
| 視 察 先 | 群馬県 道の駅川場田園プラザ |
| 視察先住所 | 群馬県 利根郡 川場村 大字 萩室385 |
| 説 明 者 | 見学 |
| 視察目的 | 「道の駅川場田園プラザの施設概要」について |

研修内容

●道の駅川場田園プラザの広大な施設の一部風景。



●園内の全景図。

●川場田園プラザメインゲートでの記念撮影。



研修内容

所感

「道の駅川場田園プラザ」は、近年、5年連続で関東の好きな道の駅ランキングで第1位や家族で一日楽しめる道の駅東日本第1位に選出されるほど集客力の高い人気の道の駅であり、5万平方メートルの広大な敷地に産直はもとより、物産センターやパン工房・子ども達が遊べる広場等多くの施設を配置し大規模道の駅としての魅力を十分満喫できる作りとなっていた。

当施設も平成27年2月全国モデル「道の駅」6駅のうちの一道に選定されており、今回の視察先のメインとも考えていたが、対応が叶わなく見学のみとなった。

施設での販売額は、約10億円であり雇用80名に加え、村内農家の93%が出荷するなど経済や地域活性化の効果は大きく、農業に加えプラス観光で自立する産業、情報、交流の核として位置付けられ、農産物や観光名所などのアクセスポイントとして、「道の駅」を目的地とする新たなニーズを掘り起こし、利用者数約120万人を誘致している。利用者のリピート率も7割あることから、施設の運営方針や施設づくりについて当市が関わる広域道の駅づくりに参考としたいところであった。

視察研修検討内容

今回新政会の視察研修では、視察先を選択するに当たりこれまで同様、久慈市政においてどの様な課題が取り上げられているのか、議会内での活動にどの様な課題があるのかを他自治体と比較検討することにより、よりよい久慈市議会を構築するための研修となるよう、事前に会派会議を行い視察先の選定と研修内容の絞り込みを行うため会派議員による意見交換を行い、各自の研修テーマを持ち寄り検討を重ねた。

その結果、久慈市議会がこの1～2年精力的に取り組んでいる「議会改革」と新聞等でも取り上げられている「広域道の駅」構想に関わる研修視察とすることとなった。

議会改革の取り組みでは、50代以下の若い議員や女性議員が多い町田市議会を議会改革先進地として、タブレット端末の使用については、他自治体に先駆けてタブレット端末を導入した先進地である飯能市議会を行政視察先とした。

また、当市を含む広域市町村で研究されている「広域道の駅」については、全国モデル「道の駅」に選定された、「道の駅もてぎ」と「道の駅川場田園プラザ」及び三陸沿岸道路完成での国道45号との関わりで考えられる道の駅として、高速道路と一般道路いずれからも侵入可能な道の駅として知られる「道の駅みぶ」を視察先として決定した。

議会改革について詳しくは、3ページ目からの視察内容と所感となるが、当市議会に於いては多くの参考とする事項があり、これからも議会改革の歩を止めずに、市民との距離がもっと近いと感じられる久慈市議会としていかなければならないものと感じられた。

タブレット端末の導入については、今後確実に使用することが確実であり、早期の導入を進めることの重要性を痛感させられた。導入に当たっては、議会側だけのタブレット導入では不十分であり、当局側の全面的理解により両者での導入・運用を進めていくことが重要であると思われる。

広域道の駅については、広域市町村での調整となることから当市への立地が叶わ

視察研修検討内容

ないことも考えられるが、確実に交通量の増加による交流人口を見込めることから道の駅整備と同時に市内への交流人口の流入を第一に考えていかなければならないものと思われる。

広大な敷地を有する3つの道の駅を視察させていただいたが、共通することは、当然のことながら十分な駐車場の確保である。ただ駐車場が広ければいいわけではなく、道の駅施設との兼ね合いを考慮し、建物に立ち入りやすい構造とすることが望まれる。また、第二駐車場の様に予備的に駐車場を整備するにしても、道の駅施設が見えるような場所としなければ利用者からは敬遠されそうであった。

その他にもトイレや建物に関しても基準とできる事項が多く、今後広域道の駅が整備される際には参考としたい。



